

# 寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Konchyū Danwakai

## 目次

牧林功	埼玉県産脈翅類ノート	556
星野正博	ムシとマイコン	561
松井安俊・松井英子	奥秩父・川又で採集した蛾(3)	565
矢島嘉和	森林公園のゼフィルス	568
野沢雅美	埼玉県産半翅類雑記(9)	569
柳田恒一郎	皆野町8月上旬の蛾(2)	570
南部敏明	寄居町ではまだ毎年空中散布をやっています	572
杉田正之	ゴイシシジミ前蛹の若干の観察	573
玉田長寿	毛呂山町の低地でウスバシロチョウを採集	574
杉田正之	嵐山町県民休養地「オオムラサキの森」の概要	575
牧神功	モモズメの交尾について	576
神部正博	埼玉県下でニセタマナヤガを採集	576
加藤輝年	ホソオアゲハ属の系統的位置は?	577
吉田文作	熊谷市におけるギンイチモンジセセリの記録	578
山崎正則	1983年の宿泊談話会で採集された Catocala	579
井瀬英子	キタテハを食べそこなったセグロセキレイ	581
川瀬司	ミドリシジミがオオイタドリの花で吸蜜	581
宮哲男	ゴマシオキシタバ平地の記録2例	582
巣川司	ヒメアカタテハの飛翔行動の観察例	582
瀬川哲司	川口市でサラサヤンマを採集	583
瀬川正博	文献紹介	583
	訂正、補遺	567, 571, 580
	金曜セミナーの報告	584
	忘年会のお知らせ	585
	新年会のお知らせ	585
	春の談話会(総会)報告	586
	夏の宿泊談話会の報告	586
	「埼玉蝶の世界」出版される!	587
	会報	588
	編集後記	590
	付録	





## 埼玉県産脈翅類ノート

牧林功

ご承知のごとく“埼玉県動物誌(1978)”には、脈翅類の記述がまったくない。従って、埼玉県にどのような脈翅類が生息しているか不明である。筆者はこの点を補うべく、2年ほど前から注意して脈翅類の採集をしてきた。また、有志の方から標本のご恵与も受けた。そこでとりあえず、手許にある標本をいちおうまとめておくことにする。もとより集め始めたばかりで十分な材料がないが、追々、補記していくかたちで整備していくと思う。

ここに記録するもののうち、所沢市三ヶ島産のものは、“所沢市三ヶ島の昆虫類調査報告”と重複しているのでご承知いただきたい。採集者名の記述のないものは、筆者の採集である。

また、標本をご提供下さった各位、文献のコピーを心よく引き受けて下さった巣瀬司氏に厚く御礼申しあげる。

## I. ヒロバカゲロウ科 OSMYLIDAE

## Ia. ヒロバカゲロウ亜科 Osmylinae

1. ウンモンヒロバカゲロウ *Osmylus tessellatus* MacLachlan

/ ex. ; 秩父郡大滝村柄本 19-VIII-1982

比較的普通種で、埼玉県では秩父にすでに記録がある (Kuwayama, 1962)。

2. *Plethosmylus decoratus* (Nakahara)

/ ♀; 所沢市三ヶ島 5-VI-1983

北海道、本州に分布する。少い種で、近くでは高尾山(東京)に記録がある

## II. ヒメカゲロウ科 HEMEROBIIDAE

## IIa. ヒメカゲロウ亜科 Hemerobiinae

3. エグリヒメカゲロウ *Drepanopteryx phalaenoides* (Linné)

/ ex. ; 三峰山 28-VIII-1983

上高地、札幌に記録がある。5月下旬から8月上旬に出現する (Kuwayama, 1962)、というから、この記録は遅いものと思われる。日本では稀な種。

## III. クサカゲロウ科 CHRYSOPIDAE

## IIa. クサカゲロウ亜科 Chrysopinae

4. ホシクサカゲロウ *Chrysopa vittata* Wesmael

/ ♀; 秩父郡大滝村柄本 19-VIII-1982

北方系の種で、本州では十和田（青森）と京都に記録がある。

5. ムモンクサカゲロウ *Chrysopa ciliata* Wesmael

/ ♂ ; 所沢市三ヶ島 4-IX-1983

関東では、中禅寺（栃木）、高尾山（東京）に記録があるのみ。

6. ヤマトクサカゲロウ *Chrysopa nipponensis* Okamoto

♀ ♂ / ♀ ; 所沢市三ヶ島 4-VI-1983

3 ♂ ; 同 上 5-VII-1983

普通種である。

7. ヨツボシクサカゲロウ *Chrysopa septempunctata* Wesmael

/ ♂ / ♀ ; 大宮市天沼 15-VII-1983

/ ♂ ; 所沢市三ヶ島 4-IX-1983

/ ♀ ; 入間郡日高町吊着田 10-IX-1983

/ ♂ ; 秩父郡大滝村柄本 19-VIII-1982

普通種である。

8. クモンクサカゲロウ *Chrysopa formosa* Brauer

/ ♂ ; 所沢市三ヶ島 5-VII-1983

普通種である。

#### IV. カマキリモドキ科 MANTISPIDAE

##### IVa. カマキリモドキ亜科 Mantispinae

9. ヒメカマキリモドキ *Mantispa japonica* MacLachlan

/ ♀ ; 入間郡日高町吊着田 10-IX-1983

この標本は diminuta型ではない。

10. キカマキリモドキ *Eumantispa harmandi* (Navás)

/ ♂ / ♀ ; 秩父郡大滝村柄本 19-VIII-1982

/ ♀ ; 三峰山 27-VIII-1983

#### V. ウスバカゲロウ科 MYRMELEONTIDAE

##### Va. ウスバカゲロウ亜科 Myrmeleontinae

11. ウスバカゲロウ *Hagenomyia micans* (MacLachlan)

♂ ♂ / ♀ ; 入間郡大井町砂川堀 25-VIII-1983 市川 和夫氏 採集

普通種である。

12. コウスバカゲロウ *Myrmeleon formicarius* Linne

/ ♀ ; 所沢市三ヶ島 2-VIII-1983

/ ♀ ; 秩父郡大滝村柄本 19-VIII-1982

普通種である。

13. ニセコウスバカゲロウ *Grocus bore* Tjeder (図 1 ~ 5, 7, 9 ~ 10)

♂ / ♀ ; 所沢市三ヶ島 19 - VII - 1983

× ♂ / ♀ ; 三峰山 27 - VIII - 1983

普通種である。

14. ハマベウスバカゲロウ *Grocus solers* (Walker) (図 6, 8, 11)

× ♂ ; 秩父郡大滝村柄本 19 - VII - 1982

本種は現在までの知見では、日本において新潟県黒川および角田浜に産するのみ。しかし、南鮮では普通で、中国にも産する。この大滝村での記録は注目すべきものであるが、日浦(1977)の“ウスバカゲロウの絵解き検索”で図示したニセコウスバカゲロウは、明らかにハマベウスバカゲロウである。日浦氏がその図を手持ちの標本から描いたとするなら、ニセコウスバカゲロウの記録のうち、兵庫県舞子・高砂あるいは岸和田市のいずれかは、ハマベウスバカゲロウの可能性がある。

ハマベウスバカゲロウは、今までの産地から海岸性のものとされていた (Kuwayama, 1957) が、大滝村で採集された事実は、決して海岸性のものとのとは限らないことを物語る。

ちなみにニセコウスバカゲロウ *G. bore* とハマベウスバカゲロウ *G. solers* の Kuwayama (1962) による差異は次のようなになる。

触角は短く、弱くクラブする (図 8)。縁紋はグレイではっきりしない  
..... *G. solers*

触角は細うそりして広くなり、あるいは平らになり前方に向う (図 7)。

縁紋は黄白色で大きくはっきりしている。 ... *G. bore*

触角先端部は、図 7、8 のような違いがある。Kuwayama (1962) の指摘以外に、前翅2A脈が *G. bore* では短い (図 1 ~ 5) が、*G. solers* では若干長く伸び、1A室の基半をぬうように走っている (図 6) 点が、両種を区別するポイントになるはずである。交尾器ももちろん異なる (図 9, 10, 11)。

#### VI. ツノトンボ科 ASCALAPHIDAE

##### VIA. オオツノトンボ亜科 Holophthalminae

15. オオツノトンボ *Protidricerus japonicus* (MacLachlan)

♀ ; 比企郡物見山 25 - VI - 1983 和田 基義氏 採集

♀ ; 所沢市三ヶ島 2 - VII - 1983 氷室 美芳氏 採集

関東地方では、東京・拝島 (Kuwayama, 1962)、神奈川・小田原 (佐藤, 1981) の記録について 3 番目の記録になる。

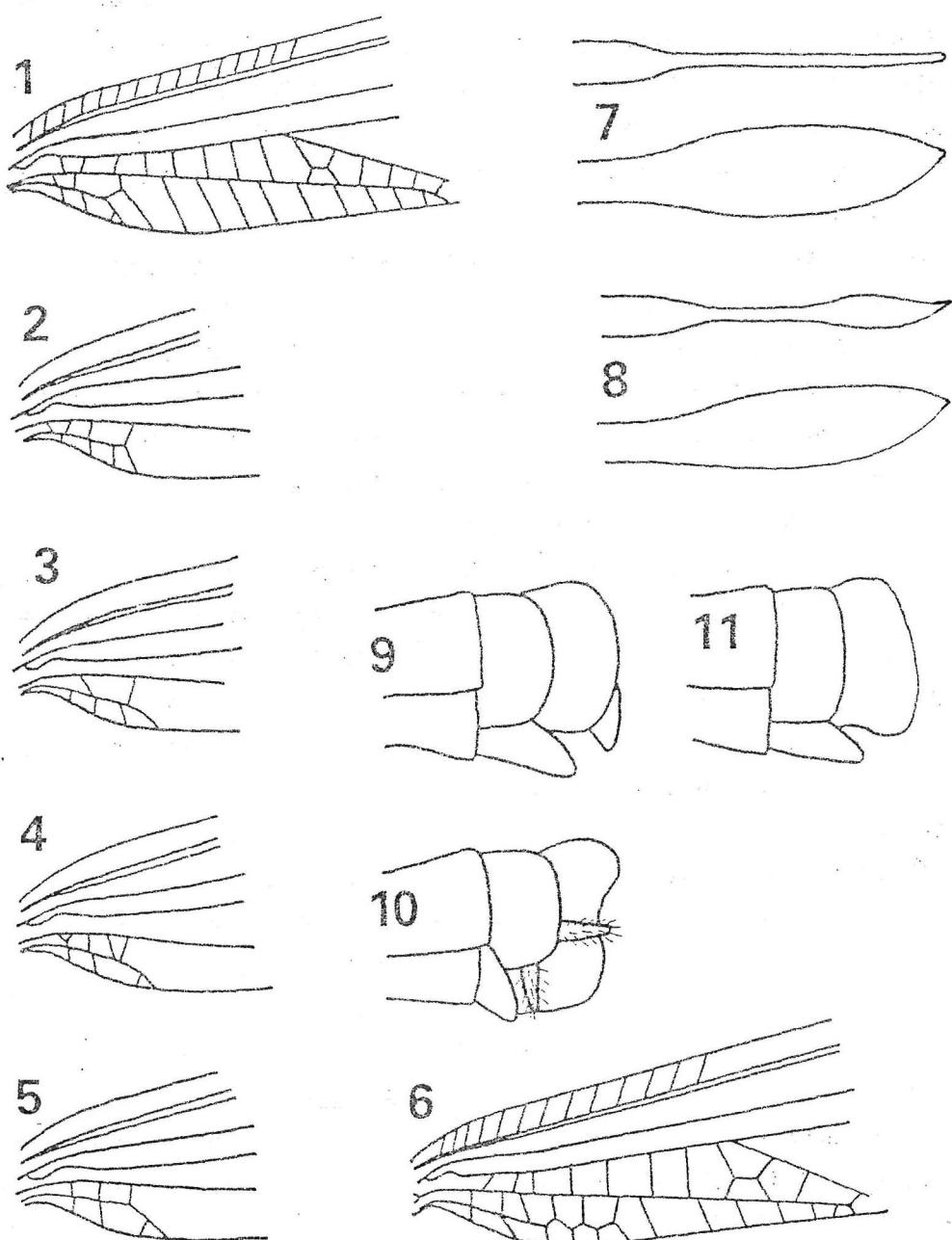
参考文献

- 日浦 勇 (1977) ウスバカゲロウ 1, 2. Nature Study 23(8); 5~7,  
23(9); 2~4.
- Kuwayama, S. (1959) On the genera Myrmeleon and Grocus in Japan and  
adjacent territories. Kontyū 27; 66~69.
- (1962) A revisional synopsis of the neuroptera in Japan.  
Pacific Insects 4 (2); 325~412.
- 岡本 半次郎 (1919) 本邦産草蜻蛉科に関する研究. 北海道農試報告 9; 1~76.
- 佐藤 勝信 (1981) 神奈川県のコオロギ、バッタ、カマキリ類その他について. 神奈川県昆虫調査報告書 227~231.

[図版説明]

- 1 ~ 5 : G. bore 前翅1A室基半の状態,  
1, 2 ; 所沢市三ヶ島産 ♂, 3 ; 三峰山産 ♂, 4 ; 所沢市三ヶ島産 ♀  
5 ; 三峰山産 ♀.
- 6 ; G. solers 前翅1A室の状態 (大滝村産).
- 7 ; G. bore 触角先端部、上は側面観、下は背面観.
- 8 ; G. solers 触角先端部、上は側面観、下は背面観.
- 9 ; G. bore ♂ 交尾器外部 背面観.
- 10 ; G. bore ♀ 交尾器外部 背面観.
- 11 ; G. solers ♂ 交尾器外部 背面観.

(まきばやしいさお 〒330 大宮市天沼町2-864)



## ムシとマイコン

星野 正博

世の中の進歩は速いもので虫屋さんの回りにもコンピューターの1台ぐらいは転がっているようになってきたようです。私の職場には臨調のおかげでいまだに1台もありません。時代の流れに取残されないように? とやむなく自費で買った人が何人かいまして、かくいう私もその一人、サアテ何に使おうかな・・・

ある日、金曜セミナーで1人1話を聞いておりましたところ同好の士がお見えになりました蛾の採集報告書を印刷するプログラムを割られたとのこと、ラベルも出てくるとよいのですがまだやっていませんとのお話でした。

そうだ! ボーナスをはたいて買ったばかりのプリンターはラベル印刷に使えるじゃないかと つまらないことにやっと気が付いてその日の夜中に頑張ってプログラムらしいものを割ってみました。その後、別の構想のもとにもう1つ計2つのプログラムができあがりました。

ラベル書きという仕事はなかなか面倒なものでついつい先伸しになりがちです。学生の頃は暇ですから活字を組んでアダナという印刷機で必要数を作っていました。最近はオリベッティの高級なタイプライターを借りてきて、これを縮小コピーで適当な大きさにして使っています。このタイプの良いてんはピッチが3通りあることで、レイアウトを考えるととてもきれいにしあがります。しかし紙にタイプすると必ず失敗して打ちなおすことになりそのうちいやになってきます。マイコンの画面で編集しますと誤りだけをなおせばよく、横幅も適当になおせます。必要数を入力すれば印刷されるようにもできます。欠点はドットマトリクスプリンターなので字体がやや汚いのですが縮小すれば気にならぬ。TT Sのラベル注文が無くなったりすると営業妨害だといわれそうですが時代の流れなのでいたしかたなしといったとこでしょう。

このソフトは9月のセミナーで紹介しましたので、使ってみての感想を知りたいと思います。長崎の栗林写真研で虫の研究を担当している旧友の大谷 剛氏に評価を依頼したところ"まあ良く出来ていると思う"という返信と共に一部手直しをしたテープがきました。しかし、このソフトについての思想の違いもあり私にとっては良くなつたとも思えません。結局、彼もいうようにこのプログラムを基にして各自の好きなように変えれば良いのではという結論になりました。しかし、私はこれで必要十分と確信しているのだが。2つのソフトは改良を重ね、現在Ver. 1.7になっています。

編集子のU氏より記事を書いてみてほしいとのこと。これまでの寄せ蛾記と

は毛色の違う記事となりました。U氏と相談の結果リストをそのまま印刷するのはやや難しいとのことや、前記のこともあるのでここではラベルプログラムの考え方についての私見を紹介するにとどめておきますが特に私のプログラムを使いたい方はこの記事の最後をお読みください。

### ラベルに必要な条件

TTTのラベルを参考にすると横 14字 から 17字 で 4行 か 5行 が良いようで、更に1行目と最後の行の長さをそろえないと見ぐるしくなります。さて、さく基本的なプログラムは次のようにになります。

```

10 for A=1 to M
20 for B=1 to N:LPRINT" Mt. TOYASAN " :NEXT
30 for B=1 to N:LPRINT" Saitama pref. " :NEXT
40 for B=1 to N:LPRINT" July 25, 1984 " :NEXT
50 for B=1 to N:LPRINT" M. Hoshino leg. " :NEXT
60 NEXT A : END

```

Nはプリンターの横の文字数から決め、MとNの値は必要枚数で決めます。実行するには、List 20, 50として" "の中をなおして実行すると" "の中だけ印刷されます。

この6行のプログラムをいかに使いやすく加工するかが問題です。プログラムの中で重要な部分はプリンターのコントロールでこれで使えるかどうかが決まります。しかしコントロールコードはメーカーごとに、またパソコン本体ごとに少しづつ違うこと、印字品位がプリンターごとに違うので各自のシステムに合せる必要があります。私はPC8001mkIIとRP80/FTIIを使用しています。私のシステムでは4種類の文字が使えますがエリート文字か縮小文字が良いようです。これでプリントしたものを縮小して0.5倍にするとラベルに丁度よい大きさになりました。

しかしこのプログラムはどう加工してもプログラムらしさがありません。それは、リストをなおしてプリントするからですが結構便利に使えます。

プログラムらしく構成するには次のような考えをとります。

プログラムを実行すると次のような画面が出てきます。

採集地は?	[Mt. MITSUMINESAN]
市町村は?	
県 は?	Saitama pref.
月日年は?	Aug. 15th, 1984
採集者は?	M. Hoshino leg

その後をタイプすると次に進むようにします。【市町村は ?】は不要なときもあります。【採集者は ?】は自分専用のプログラムならば始めから書込んでおきます。次の画面は

B

次のように印刷されます。	[Mt. MITSUMINESAN]
	Saitama pref.
	Aug. 15th, 1984
	M. Hoshino leg.
訂正がありますか？	Yes or No

ここで誤りがあれば Yes として訂正します。No とすると、次の画面になります。

C

印字書体は ?	1 Pica
	2 Highreso Pica
	3 Eleate
	4 Condence Size

1, 2, 3, 4, を入力すると、次は

D

何枚必要ですか。 ?
------------

50枚などとするとプリンターが動いて アット言う間に出来上がり最後の画面は

E

1 これで終わります。
2 同じものを更に印刷します。
3 編集画面に戻ります。

3 としたときは訂正画面に戻るほうが便利です。採集地が同じで日付を変えるようなことがよくありますから。

これを一般的なプログラム言語の BASIC で組んでみました。▲ 画面について一例を示しますと

```

10      INPUT "採集地は" ; A(1) $
20      INPUT "市町村は" ; A(2) $
30      INPUT "県   は" ; A(3) $
40 LINE INPUT "月日年は" ; A(4) $
50      INPUT "採集者は" ; A(5) $

```

10, 20, 30, 50行は左右の端に何か字を必ず入れます。それと , は使えません。40行のLINE INPUT では , が使え、左端から空白が入りますが右端はだめです。

なお、プログラム内では通常漢字が使えません。カナとABCだけです。

### 印刷プログラムの工夫

多くのプリンターは横80字ですが、エリート、縮小文字では96, 136字ですから、ラベル1枚の字数から横に何駒に入るか求めます。

行間隔は2／144インチ単位で決められますので良好なレイアウトが期待されます。駒と駒の間隔は縮小して切はなすことを念頭に決めます。

以上を実現する為のプログラムを組むのは比較的容易で初めてマイコンプログラムに挑戦するのにむいていると思います。私もマニュアルを見ながらなんとか組みあげて、その後時間をかけて不備を改良しました。しかし他の評価を求めてみると大筋では良いとしても、細部では不満が残るようです。

ともあれ私のところでは便利に使っています。金銭勘定をしてみると1枚のプリント用紙に150から300駒ぐらいプリントして紙代 2円、縮小コピーを2回繰返す(50%縮小)と50円程度で1駒の印刷費は極わずかです。但し、マイコン代は別ですが。なおハガキコピーをやってくれる店でケント紙を持参してコピーしてもらうと良いと思います。

本会会員の方でプログラムリストが必要な方は提供いたしますので連絡して下さい。プログラムは N80-BASIC で組んでありますがNEC系であればわざかの変更で動くはずです。他社の機械でも概ね使えますがプリンターコントロールに関する部分は違うかと思います。

しかしマイコンをこのような事にしか使わないのは非常にもったいないわけで、飼育・採集記録や調査データの整理などアイデアしだいでいろいろに使えそうです。実現する能力が不足のようですがアイデア募集中です。

(〒338 与野市 下落合 561 星野正博 )

※編集子 許 ほしの まさひろ氏から届いたワードプロの原稿をそのまま印刷しました。

## 奥秩父・川又で採集した蛾 (3)

ハマキガ科、カギバガ科、シャチホコガ科、ドクガ科、ヒトリガ科など

松井 安俊・松井 英子

本会1981年および82年の宿泊談話会(於・東京大学秩父演習林)で採集した蛾類のうち、既報のシャクガ科(本誌No.39)、メイガ科(同No.40)およびヤガ科(続報の予定)を除く科の、先に市川和夫氏が記録されたもの(同No.33)と重複しない種について報告する。記載方法は既報に同じである(後註参照)。

## I. ハマキガ科 TORTRICIDAE

- 1.( 83) アカトビハマキ *Pandemis cinnamomeana* (TREITSCHKE), 2♂♂ 2♀♀ B
- 2.( 98) タテスジハマキ *Archips pulcher* (BUTLER), 1♀ B
- ※( 119) アミメキイロハマキ *Ptycholoma imitator* (WALSINGHAM), 1♀ B
- ※( 137) フタモンコハマキ *Argyrotaenia liratana* (CHRISTOPH), 2♂♂ B
- ※( 139) ニセトビモンコハマキ *A. nigricana* YASUDA, 2♂♂ B
- ※( 228) チャモンギンハマキ *Croesia arcuata* YASUDA, 1ex. B
- ※( 276) キモンヒメハマキ *Statherotmantis pictana* (KUZNETZOV), 1ex. B
- 8.( 511) ヨモギネムシガ *Epiblema foenella* (LINNAEUS), 2♂♂ 1♀ B

## II. ホソハマキモドキガ科 GLYPHIPTERIGIDAE

- 9.(1021) キスジホソハマキモドキ *Glyphipterix gaudialis* DIAKONOFF & ARITA  
1ex. B

## III. マルハキバガ科 OECOPHORIDAE

- 10.(1131) クロマイコモドキ *Lamprystica igneola* STRINGER, 1ex. B
- 11.(1134) ホソオビキマルハキバガ *Cryptolechia malacobyrsa* MEYRICK, 1ex. B
- 12.(—) Gen. et. sp. 1ex. B

## IV. ツツミノガ科 COLEOPHORIDAE

- 13.(1193) アオビニツツミノガ *Celeophora amaranthirora* OKU, 1ex. B

## V. キバガ科 GELECHIIDAE

- 14.(1277) カギツマシマキバガ *Polyhymno obliquata* (MATSUMURA), 1ex. B

## VI. シンクイガ科 CARPOSINIDAE

- 15.(1330) クロボシシロオオシンクイ *Heterogymna ochrogramma* MEYRICK,  
1♂ 1♀ B

## VII. イラガ科 LIMACODIDAE

- 16.(1383) ムラサキイラガ *Astrapoda nitobeana* (MATSUMURA), 1♀ B

17. (1384) クロシタアオイラガ *Latoia sinica* (MOORE), 1♂ B

VII. マドガ科 THYRIDIDAE

18. (1417) ハスオビマドガ *Pyriniodes aureus* BUTLER, 1♀ B

IX. カギバガ科 DREPANIDAE

19. (2080) マエキカギバ *Agnidra scabiosa* (BUTLER), 1♀ B

20. (2081) オガサワラカギバ *Microblepsis acuminata* (LEECH), 1♀ B

21. (2083) ヒメハイイロカギバ *Pseudalbara parvula* (LEECH), 1ex. B

22. (2085) エゾガギバ *Nordstromia grisearia* (STAUDINGER), 1♀ B

23. (2087) ウスオビカギバ *Sabra harpagula* (ESPER), 1♀ A

※24. (2092) ウスイロカギバ *Callidrepuna palleola* (MOTTSCHULSKY), 1♀ A

X. オオカギバガ科 CYCLIDIIDAE

25. (2111) ギンスジガギバ *Mimozethes argentilinearia* (LEECH), 2♀ B

XI. トガリバガ科 THYATIRIDAE

26. (2113) モントガリバ *Thyatira batis* (LINNAEUS), 1♀ B

27. (2140) ネグロトガリバ *Mimopsestis basalis* (WILEMAN), 1♂ 1♀ B

28. (2149) ナミスジトガリバ *Mesopsestis undosa* (WILEMAN), 1♂ B

XII. ツタオガ科 EPIPLEMIDAE

29. (2943) キンモンガ *Psychostrophia melanargia* BUTLER, 1♂ 1♀, 滝川

30. (2948) クロホシフタオ *Epiplema moza* (BUTLER), 1♀ A

31. (2955) クロフタオ *E. styx* (BUTLER), 1♀ B

XIII. カレハガ科 LASIOCAMPIDAE

32. (2972) ギンモンカレハ *Somadasys brevivenis* (BUTLER), 1♂ B

33. (2979) ミヤケカレハ *Takanea miyakei* (WILEMAN), 2♂ B

XIV. シャチホコガ科 NOTODONTIDAE

34. (3074) シャチホコガ *Stauropus fagi* (LINNAEUS), 1♂ B

35. (3080) アオシャチホコ *Quadricalcarifera japonica* NAKATOMI, 1♂ B

36. (3082) オオアオシャチホコ *Q. cyanea* (LEECH), 1♂ B

37. (3087) バイバラシロシャチホコ *Cnethodonta griseescens* STAUDINGER  
1♂ B

38. (3093) ホシナカグロモクメシャチホコ *Furcula infumata* (STAUDINGER)  
1♀ B

39. (3099) ムラサキシャチホコ *Uropyia meticulodina* (OBERTHÜR), 1♂ B

40. (3108) オオネグロシャチホコ *Eufentonia nihonica* (WILEMAN), 1♀ A

41. (3120) カバイロモクメシャチホコ *Hupodonta corticalis* BUTLER, 1♂ B

42. (3142) マルモンシャチホコ *Peridea moltrechti* (OBERTHÜR), 1♂ 1♀ B

寄せ蛾記 (43) : 567

43. (3143) イシダシャチホコ *P. graeseri* (STAUDINGER), 1♀ B  
44. (3153) カエデシャチホコ *Semidonta biloba* (OBERTHÜR), 1♂ B  
45. (3170) プライヤエグリシャチホコ *Lophontosia pryeri* (BUTLER), 1♂ 1♀ B

XV. ドクガ科 LYMANTRIIDAE

46. (3198) マメドクガ *Cifuna locuples* WALKER, 2♂ 2♀ B  
47. (3218) マイマイガ *Lymantria disper* (LINNAEUS), 1♀ A  
※ 48. (3220) バンタイマイマイ *L. bantaizana* MATSUMURA, 1♀ B  
49. (3221) カシワマイマイ *L. mathura* MOORE, 1♂ B  
50. (3222) ノンネマイマイ *L. monacha* (LINNAEUS), 1♂ 1♀ A (市川氏) 1♂ B

XVI. ヒトリガ科 ARCTIIDAE

51. (3248) ムジホソバ *Eilema deplana* (ESPERR), 1♀ B  
52. (3261) ヒメキホソバ *E. cibrata* (STAUDINGER), 1♂ B  
53. (3271) アカスジシロコケガ *Bizone hamata* WALKER, 1♂ 1♀ B  
54. (3295) ベニヘリコケガ *Miltochrista miniata* (FORSTER), 1♂ 1♀ B  
55. (3328) ベニシタヒトリ *Rhyparioides nebulosus* BUTLER, 1♂ B

XVII. コブガ科 NOLIDAE

- ※ 56. (3362) ナミコブガ *Nola nami* (INOUE), 2exs. B  
※ 57. (3363) ウスカバスジコブガ *N. ebatoi* (INOUE), 1♂ B  
58. (3393) リンゴコブガ *Mimerastria mandschuriana* (OBERTHÜR), 1♀ B

XVIII. トラガ科 AGARISTIDAE

59. (4573) トビイロトラガ *Sarbanissa subflava* (MOORE), 1♀ B

(註)

- 1). データ, A: 1981-VII-28, B: 1982-VII-19 ともに奥秩父 川又の東大演習林宿舎にて灯火採集。
- 2). 配列は、井上他「日本産蛾類大図鑑」(講談社, 1982) の解説に従った。
- 3). ( ) は、同上の synonymic catalogue の番号。亜種名は省略。
- 4). ※印は埼玉県未記録種。

(まついやすとし まつい ひでこ 〒277 柏市根戸427-5  
北柏第2住宅 3-102)

## 森 林 公 園 の ゼ フ ィ ル ス

矢 島 嘉 和

一昨年より卵採集や成虫採集などで、東上線森林公園付近で確認できたゼフィルスを報告する。

## 1. ウラゴマダラシジミ

分布は局部的で、森林公園では森林公園駅南口で最近陸橋のできた道のわきにオボタが多く、その場所に集中して見られる。車の排気ガスもあり、生存が危ぶまれる。卵、幼虫を多く見るわりには、成虫は少ない。

〔採集記録〕 10♂ 2♀, 7-VI-1983

## 2. オオミドリシジミ

分布は広く、森林公園で一番多く見られる。近くのクリ林の花で見られるのも、ほとんど本種である。採卵では、主に1m~2m位の横に伸びた枝の分歧点に多く産まれている。コツを覚えれば、当地でかなり得られると思う。

〔採集記録〕 10♂ 2♀, 12-VI-1982 / 10♂ 6♀, 18-VI-1983

## 3. ミドリシジミ

当地では余り多くない。雑木林の中にあるハンノキに卵を時々みかける程度である。雌ではO型、B型が多いように思う。

〔採集記録〕 2♀, 21-VI-1982

## 4. ミズイロオナガシジミ

ミドリシジミ同様、少い種類である。採卵も難しく、今までクヌギのみで、3m以上の高い太い枝に産んでいる。ただし、幼虫はコナラでも2例のみ発見している。

〔採集記録〕 1♀, 21-VI-1983

## 5. アカシジミ

当地で一番少ないゼフィルスである。採卵も1例のみで、幼虫は採集していない。

〔採集記録〕 2♂, 19-VI-1982

森林公園では上記の5種のみで、ウラナミアカシジミは確認しておらず、生息していないと思われる。4、5年前は、駅前は雑木林がかなり多く、多くのオオミドリやウラゴマダラシジミを見たが、現在では家、病院も建ち、道路も整備されてきたため、これらゼフィルスの個体数は減少していくと思われる。

特にウラゴマダラシジミが心配される。当地では、駅からそう離れていない場所に雑木林があり、気楽に平地性ゼフィルスを採集する場所として最適であるが、それだけに逆に開発ですぐつぶされかねないので、今後も見守っていきたいと思う。なお、調査は主に森林公園南口で、公園として整備されている北口はあまり調査していない。

ゼフィルス以外では、春にツマキチョウ、ミヤマセセリ、ゴマダラチョウ、イチモンジチョウ、夏はヒカゲチョウ、オオムラサキ、キチョウ、秋にはツマグロキチョウを目撃している。

(やじま よしかず 〒290 市原市辰巳台西2-22 辰巳芙蓉寮)

埼玉県産半翅類雑記 (9)

野沢 雅美

① チビツチカメムシ その後の記録

ツチカメムシ科のチビツチカメムシ *Chilocoris confusus* Horráthは、光沢のある茶褐色をした3mmに満たない最小のツチカメムシである。

地中生活をし、雑草根際に生活すると言われるが、個体数は少ない種のひとつである。埼玉県における本種の記録は、1971年児玉町での記録（埼玉県の半翅類 1978）が唯一であり、その後記録を見なかつたが、本年、南部 敏明氏によってまとまった個体が記録された。データは以下に示すとおりであるが、同氏が土壤動物をツルグレン装置で調査中に検出したものである。

採集地：熊谷市大麻生 1984年5月27日 13exs.

一部標本の恵与を頂き、発表を許された南部 敏明氏に心より感謝を申し上げる。

(のざわ まさみ 寄居町桜沢2506の4番地)

XXXXXX

訂正、補遺 寄せ蛾記 (41) : 505-507 「埼玉県飯能市でウスイロコノマチョウを目撃」

p. 505 最下段 (誤) 中条村 口 (正) 中之条町

p. 506 上から15行目 (誤) なったく 口 (正) まったく [編集子]

(補遺) リュウキュウムラサキは、その後、仙台市でも記録された。

/♀ (バラオ型) 1983年9月10日 (橋本 正俊, 1984)

[加藤 輝年]

## 皆野町 8月上旬の蛾 (2)

柳田恒一郎

今回はメイガ科を中心に数科の蛾についてまとめた。前回同様、データは下記の記号を用いた。

A・・・埼玉県皆野町戦場 5-VIII-1983

B・・・ 同 上 6-VIII-1983

C・・・埼玉県皆野町養山 6-VIII-1983

◎・・・埼玉県未記録種

## メイガ科

◎マツノシンマダラメイガ	1ex.	B	2♀	C
◎ニッコウマダラメイガ	1ex.	C		
◎ヘリグロトガリメイガ	1♂	B		
キイフトメイガ	1ex.	A		
◎ツマグロフトメイガ	1ex.	B		
ナカジロフトメイガ	2exs.	B		
オオフトメイガ	1ex.	A	2exs.	B
◎キガシラトビイロシマメイガ	1ex.	A	1ex.	B
フタスジシマメイガ	1ex.	A		
◎ツマキシマメイガ	1ex.	A		
ツマグロシマメイガ	3exs.	A		
ゼニガサミズメイガ	1ex.	B		
モンキクロノメイガ	1ex.	A		
ヘリジロキンノメイガ	1ex.	A		
フキノメイガ	1♂	B		
ヨスジノメイガ	1ex.	A		
トビモンフタスジノメイガ	1ex.	B		

## ボクトウガ科

ゴマフボクトウ 2exs. A 1♀, 1ex. C

## マダラガ科

シロシタホタルガ 1ex. A 1♂ B

## イラガ科

ナミイラガ 1♂ A 1♂, 1ex. B

クロシタオイラガ	2exs.	B
フタオガ科		
クロホシフタオ	1♀	A
カギバガ科		
マエキカギバ	1ex.	A
ヒメハイイロカギバ	2♂	A
ウコンカギバ (ヒメウコンカギバ?)	1ex.	B
アシベニカギバ	1ex.	A
カイコガ科		
クワゴ	4exs.	A
カレハガ科		
マツカレハ	2♀	A
ツガカレハ	1♂	C
ドクガ科		
マメドクガ	1♂	A
ヒメモンシロドクガ	3♂	A
スカシドクガ	1♀	C
マイマイガ	1♂	B
モンシロドクガ	1♂	B
ドクガ	1♂	B
シャチホコガ科		
モンクロシャチホコ	1♂	A
ギンモンスズメモドキ	1♂	B

メイガ科以外の科では本県未記録種は採れていなかった。

今回まとめた中では、ナシイラガ、クワゴ、マツカレハが特に多かった。

(やなぎだ こういちろう 〒351 埼玉県和光市西大和団地 / -4-301 )

XXXXXX

訂 正

XXXXXX

寄せ蛾記 (42) : 547 「皆野町 8月上旬の蛾(1)」

上から 7 行目

(誤) C · · · · · 皆野町 山 6-VIII-1983

(正) ♂ C · · · · · 皆野町 箔山 6-VIII-1983

(編集子)

寄居町ではまだ毎年空中散布を  
やつています

南部敏明

今年、寄居町では9月中～下旬にアメリカシロヒトリが大発生した。全く葉のなくなってしまった桑畠もある。この大発生の原因の1つに、夏に行なわれた農薬の空中散布があるのではないかと考えている。今年、我家の玄関のひさしと物置きの中にセグロアシナガバチが巣をつくり、特に物置きの方は育房数308になり羽化した成虫がびっしり巣にむらがっていたが、この空中散布により全滅した。使用された農薬ディップテレックスはミツバチに対してほとんど影響ないと言われているが、このことから見て、寄生蜂などが多くが死んだものと思われる。それがアメリカシロヒトリの次の世代の大発生につながったのではないだろうか。

空中散布は8月17日の朝5時～8時半に行なわれ、庭の木や屋根がうっすらと白くなつた。午後5時15分、庭の裸地に落ちている虫をひろい集めてみたところ次のようなものが見られた。空中散布の影響のささやかな記録として残しておきたい。なお、庭に沢山いたが影響がなかつたと思われるものに、アオバハゴロモ、スケバハゴロモ、カ、などがあった。

ハラビロカマキリ幼虫	1頭	ホソヘリカメムシ	1
ナミアゲハ幼虫	6	アオスジアゲハ幼虫	2
アメリカシロヒトリ幼虫	42	(ハチスの) ハマキガ幼虫	22
(スモモの) ケムシ	5	ヤガ幼虫	2
イラガ幼虫	3	スズメガ幼虫	1
ドウガネブイブイ	12	マメコガネ	4
セグロアシナガバチ	16	キアシナガバチ	1
フタモンアシナガバチ	1	アゲハヒメバチ	1
ヨーカアブ	/		

(なんぶ としあき 〒369-12 大里郡寄居町桜沢2397-2)

## ゴイシシジミ前蛹の若干の観察

杉田正之

埼玉県比企郡嵐山町菅谷において、ゴイシシジミ終令幼虫を見出し、蛹になるまでいくかの観察をしたので書き留めておきたい。

ゴイシシジミ終令幼虫時でアブラムシを捕食中は、アブラムシが幼虫体の上を歩きまわっても、特別な変化は示さない。しかし前蛹に近づいてくると、アブラムシがこの上に乗ったりすることを、体を動かしていやがるように見えた。前蛹になる後は、アブラムシのいる葉からアブラムシの全くいない葉裏に移り（例とも）、前蛹になった（体長9mm 幅4mm）。ためしに前蛹にアブラムシを乗せたら直ぐに体を揺って拒否反応を示した。

1984年6月25日に前蛹になったものを観察したら、帶糸は第1腹節にかかっていた（図）。また、帶糸の付着点は第3腹節と第4腹節のあいだにあった（図中、矢印で示した点）。今まで知られているシジミチョウ科の種の前蛹期の帶糸はすべて後胸上である（牧林：1981）。したがって、本種の帶糸の位置は極めて珍しいものと思われる。また、帶糸は1本で非常に細く、肉眼では見るのがむずかしいので、双眼実体顕微鏡で確認した。

また蛹期における帶糸は、第1、第2腹節間にかかることが知られている（上野：1981）が、蛹になってから観察したら、すべて（4個体）の個体で糸が切れていて確認できなかった。おそらく、蛹化に際して切れたものと考えられる。

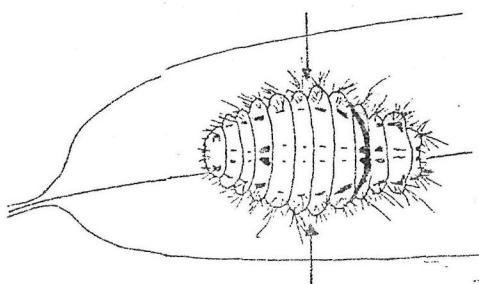
最後に、御教示いただいた牧林功氏に深く感謝します。

## 参考文献

- 牧林 功 (1981) シジミチョウ科の蛹の覚え書. 昆虫と自然 16 (4), 32~38.  
上野 秀紀 (1981) ゴイシシジミの蛹の帶糸の位置と蛹殻の裂開様式について,  
神奈川虫報 62, 33~34.

〔付記〕図の帶糸は、強調するために実際よりはるかに太く描いてある。

(すぎた まさゆき 〒355-02 比企郡嵐山町菅谷87-3)



毛呂山町の低地で  
ウスバシロチョウを採集

玉木長寿

1984年5月20日、自宅付近の雑木林の林縁の草の葉にとまって居たウスバシロチョウの新鮮な♂♀を採集した。採集地点は、毛呂山町の八高線以東の低地（海拔高約40～50m程）で、大谷木川と越辺川の合流点付近の、両河川にはさまれた地帯にあり、大谷木川の堤防により近い、雑木林と麦畑の間の草地で、採集個体は極めて新鮮で、採集当時、翅や体は未だ軟らかく、羽化後間もないものと思われた。恐らく、近くで羽化したものであろう。（雑木林にはムラサキケマンが可成りみられ、エンゴサクの一一種もわずかながら混生して居る。）あるいは、かつて茨城県水海道町の小貝川原における本種の発生について、推察されて居たのと同様に、河川の洪水など何らかの方法により、卵あるいは成虫の形で、上流の発生地から移動し、土着又は一時的に土着したものかも知れない。この点については、今後の調査の結果を待ちたい。

埼玉県の八高線以東での本種の記録は、つい数年前までは皆無であったが、市川和夫氏によれば、この2、3年前前から、東松山市、越生町、日高町などで、点々と採集、又は目撃されて居ることであるが、八高線以東での本種の採集、目撃例は少ないのであろう。

いずれにしても、今回の採集例は、産地としては興味ある事例と思われるので、ここに記録しておく。

未筆ながら、本種の八高線以東での採集、目撃例についての知見を提供頂いた市川和夫氏に厚く御礼を申し上げる。

ウスバシロチョウ *Parnassius glacialis* BUTLER

採集地：埼玉県入間郡毛呂山町大字前久保字小葛淵

採集日：1984年5月20日 ※標本の採集、保管者は筆者

〔参考文献〕

市川 和夫, 1978: 埼玉県の蝶類, 埼玉県動物誌: 259-298

昆虫と自然編集部, 1978: 関東平野のウスバシロチョウ, 昆虫と自然, 13(7): 26

広瀬 誠(茨城虫の会), 1982: 茨城の蝶とトンボ, 昆虫と自然, 17(7): 16-20

(たまき ながひさ 〒350-04 毛呂山町大字前久保332-122)

嵐山町県民休養地

「オオムラサキの森」の概要

杉田正之

「オオムラサキの森」は、嵐山町地内の県有地10.6haを中心とした雑木林を「小昆虫生息環境保全地区」とし、そのシンボルとして国蝶オオムラサキの名が表に出たわけです。又、今年度中に隣接地1.8haの雑木林も県が買収することになっていきます。

現在でも、その地区にオオムラサキは生息しているが非常に少なく、飛んでいる姿を見られたら幸運、といったところです。ですから、環境を整えている間にオオムラサキが絶滅してしまっては、という不安があります。そして、あくまでも現在生息しているオオムラサキを殖やしていくかなければ、という事で、一つの手段として菅谷小学校の敷地内に、県が飼育ケージ(6.3m×13.1m×高さ4m)を作り、自然に近い状態で今生息しているオオムラサキの一部を累代飼育し保護しておこう、という事になりました。

その飼育、観察は小学校の生物班が担当し、それと並行してPTAが中心となって、雑木林の管理を行う訳ですが、オオムラサキの吸蜜源(樹液の出る木など)を、どう確保したら良いかが一番の問題になっております。何か良い方法がありましたら御教示頂ければ幸いです。

なお、町としては条例を作り、オオムラサキの採集禁止という話もあったのですが、子供達が身近に自然を感じ、自然のすばらしさ、大切さを知り、理解してもらう目的の為には手でふれたり採ったりする事も必要だという事で話がまとまりました。しかし、越冬幼虫の採集は絶対につながるおそれがある為禁止となります。

なお、放蝶の件ですが、実際に放蝶してどの程度増えていくのか、放蝶後に調査をしてその結果によっては幼虫を放すか、蛹の時点で現地におくか、今後の課題だと思います。

ただ良いことに、何人かの町民の方が雑木林を見直し、町でも今後他所にも植栽する場合は雑木やエノキも考えに入れて植えて行くとの事ですので、オオムラサキの森から一歩進んで、山梨の長坂町のように、オオムラサキの里になればと願っております。

談話会の皆様の御協力、御指導をお願いする事があるかも知れませんが、その時はよろしくお願いします。

(すぎた まさゆき 〒355-02 比企郡嵐山町菅谷87-3)

モモスズメの交尾について

牧林 功

1984年6月12日12時15分、モモスズメ *Marumba gaschkevitschii eche-phron BOISDUVAL*〔スズメガ科〕の交尾を大宮市天沼町2丁目の自宅の庭で観察した。♀が上でもが逆さまにぶら下っていた。この種は多くの蝶のように交尾したままで飛翔することはできないが、突ついて動かすと、♀が♂を引きずって移動する。したがって、交尾中の主導権は♀にあり、交尾移動形式は、♀十♂である。この形式はキアシドクガ *Ivela auripes BUTLER*〔ドクガ科〕と同様である。  
※

なお交尾中、♂の触角は前翅前縁にピタリとくっつけられており、♀の触角は前翅前縁とほぼ平行な位置関係にあったが自由であった。このことも、交尾中の主導権に関係があると思われる。

また前夜、モモスズメの1個体が玄関灯に飛来していたが、その個体が交尾したものと同一かどうかは不明である。しかし、この種の活動時間帯から考えて、交尾にいたったのは夜半であろう。それから翌日の屋下りにいたるまで、ずいぶん長時間にわたって交尾しているものである。

※牧林 功(1984)キアシドクガのノート、神奈川虫報 70, p 12.

(まきばやし いさお 〒330 大宮市天沼町2-864)

埼玉県下でニセタマナヤガを採集

神部 正博

筆者は、ニセタマナヤガ (*Teridroma saucia Hübner*) / ♂を、1981年12月8日に草加市柳島町で得た。本種は、県内で初記録と思われる所以報告する。

本種は、1973年に静岡県で得られてから、近年各地で記録が増えはじめてきているようである。

なお、発表にあたり、本種について御教示下さった神奈川昆虫談話会の神部昭夫氏、ならびに発表を勧めて下さった市川和夫先生に感謝します。

(標本は筆者保管)

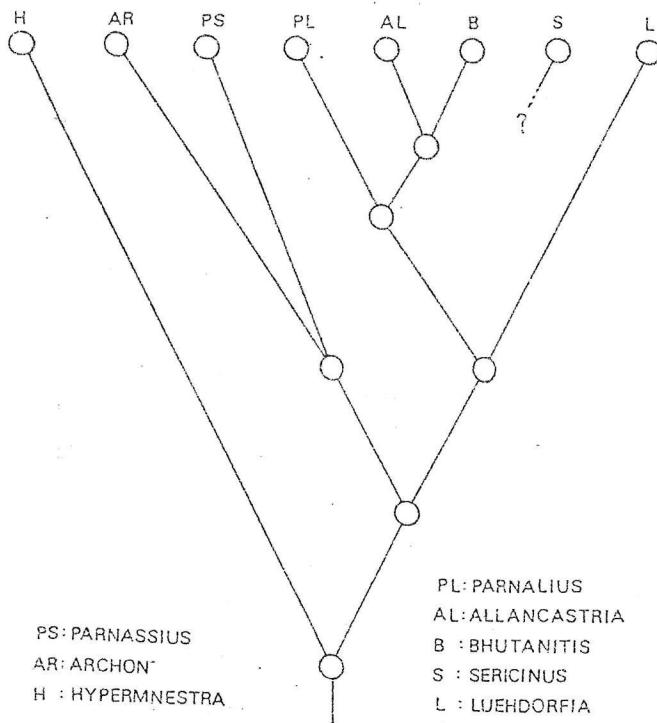
(かんべ まさひろ 〒340 草加市西町366-7)

## ホソオアゲハ属の系統的位置は?

加藤輝年

ウスバアゲハ亜科 (*Parnassiinae*) の諸属の系統的関係については、三枝豊平氏の一般向けの解説などにより、私たちアマチュアにも問題点が少しあはわかるようになってきました。また、一見難解そうなヘニックの系統論も、やはり同氏の解説により、理論そのものはたいへん理解しやすくなっています。そこで、日浦勇氏による、翅の紋様解釈にもとづくウスバアゲハ亜科の属の系統図<sup>5)</sup>を、三枝説で部分改編してみると、現時点では、このグループは下図のような関係になりそうです。ただ、ホソオアゲハ属 (*Sericinus*) の系統的位置を論理的に決めるのは、今のところたいへん難しいようです。

過去の歴史を再現することはもちろんできませんが、あれこれ考えてみるのも楽しいことです。・・・ *Sericinus*への分化は、はたしてどこで起きたのでしょうか。



## 〔参考文献〕

- 1) 三枝 豊平 (1973) ギフチョウ属の系統論 (1). 昆虫と自然, (8) 5.
- 2) ———— (1982) ギフチョウ属とその近縁のチョウ. 採集と飼育, (44) 5.
- 3) ———— (1983) ウンナンシボリアゲハ — 消えたミッシング・リンク  
ちょうちょう, (6) 11
- 4) ———— (1980) 比較形態学に基づく系統解析法. 西村 光雄 (編)  
生物学の研究法, 共立出版.
- 5) ———— (1980) ウスバアゲハ亜科諸属の翅の紋様解析と系統論.  
大阪市立自然史博物館研究報告, (33).

(かとう てるとし 〒357 飯能市双柳5/2-3)

~~~~~

熊谷市における  
ギンイチモントジセセリ の 記録

吉田 文作

熊谷市には、比較的多くの生息地が存在していたが、宅地開発等で破壊され、現在は、荒川、福川の河川敷等に見られる程度になりつつあり、環境変化に弱いこの蝶が、年々減少の一途をたどっていることは残念です。今まで、熊谷市内で確認された生息地を報告しておきます。

|          |             |           |        |
|----------|-------------|-----------|--------|
| 熊谷市大字上中条 | 24-IV-1974  | 福川の河川敷    | 多数     |
| " 大字 上之  | 28-IV-1974  | 現在は住宅地    | / ex.  |
| 同 上      | 20-VII-1978 | 同上        | —      |
| " 大字 小島  | 24-IV-1974  | 現在は運動公園   | 3 exs. |
| " 大字上奈良  | 21-IV-1974  | 開発されてしまった | / ex.  |
| " 大字大麻生  | 20-IV-1976  | 荒川河川敷     | 3 exs. |
| " 大字 久下  | 19-VII-1978 | 同 上       | 多数     |

(よしだ ぶんさく 〒360 熊谷市大字三ヶ尻2849-1)

## 1983 年の宿泊談話会で採集された Catocala

山崎 正則

1983年8月27日・28日の両日、当会の宿泊談話会が秩父郡大滝村三峰山においておこなわれたが、その際、各人が採集することのできた蛾類のうち Catocalaを、個人別に記録しておく。

## 〔総計〕

|          |                             |       |
|----------|-----------------------------|-------|
| オオシロシタバ  | Catocala lara Bremer        | /頭    |
| ムラサキシタバ  | C. fraxini Linnaeus         | /頭    |
| オニベニシタバ  | C. dula Bremer              | 7頭    |
| シロシタバ    | C. nivea BUTLER             | 20頭   |
| エゾシロシタバ  | C. dissimilis Bremer        | 3頭    |
| ゴマシオキシタバ | C. nubila BUTLER            | 50頭   |
| キシタバ     | C. patala Felder&Rogenhofer | 3頭    |
| ジョナスキシタバ | C. jonasii BUTLER           | 20頭   |
| 計 8 種    |                             | 105 頭 |

## 〔個人の記録〕

|       |                                          |                                      |                            |                          |
|-------|------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|--------------------------|
| 市川 和夫 | ムラサキシタバ<br>シロシタバ<br>ゴマシオキシタバ<br>ジョナスキシタバ | / ex.<br>3 exs.<br>13 exs.<br>/ ex.  | オニベニシタバ<br>エゾシロシタバ<br>キシタバ | 2 exs.<br>/ ex.<br>/ ex. |
| 神部 正博 | オニベニシタバ<br>ゴマシオキシタバ                      | / ex.<br>13 exs.                     | シロシタバ<br>ジョナスキシタバ          | 4 exs.<br>7 exs.         |
| 小堀 文彦 | オオシロシタバ<br>シロシタバ<br>ゴマシオキシタバ<br>ジョナスキシタバ | / ex.<br>4 exs.<br>10 exs.<br>5 exs. | オニベニシタバ<br>エゾシロシタバ<br>キシタバ | 2 exs.<br>/ ex.<br>/ ex. |
| 氷室 美芳 | シロシタバ                                    | 2 exs.                               | ゴマシオキシタバ                   | 2 exs.                   |
| 松井 安俊 | オニベニシタバ<br>ゴマシオキシタバ                      | 2 exs.<br>11 exs.                    | シロシタバ<br>ジョナスキシタバ          | 2 exs.<br>4 exs.         |
| 山崎 正則 | シロシタバ<br>ゴマシオキシタバ<br>ジョナスキシタバ            | 5 exs.<br>1 ex.<br>3 exs.            | エゾシロシタバ<br>キシタバ            | / ex.<br>/ ex.           |

※確井徹氏の採集品は、市川和夫氏が保管しているため、市川氏名で記録する。

※松井安俊氏の採集品の中には、松井英子氏、松井純一君の採集品が含まれている。又、松井氏採集品の中で、ゴマシオキシタバ // exs. のうち、黒

化型 (f. fasciata) が 2 ♀ 記録されています。当日、ゴマシオキシタバを採集された方は、再度、同定、確認をお願いします。

当夜は明け方まで濃い霧につつまれ、夜間採集には絶好の夜となり、予想以上の数が採集できたようで、上記の採集品の他、目撃も含めれば相当数のカトカラが飛来したものと思われる。種類別に見れば、ある程度定まった種類が大半を占めるものの、各 / 頭ずつながらもオオシロシタバ、ムラサキシタバが採集できた事は、内容的に充分なものがある様に思われる。オオシロシタバが小堀氏、ムラサキシタバが碓井氏の採集であるが、後日うかがった話では、両氏共に採集後同定するまではシロシタバであると思っていたとの事である。

この一夜で、かつての好採集地ではなく、いま現在も三峰山はカトカラ類の好採集地である事を、再認識できた様に思える。

又、今回の夜間採集は純蝶屋さんが少なかったため、人員応援という意味で若干の若手純蝶屋が団結し、若さを武器に、蝶屋としての意地と根性で誘蛾燈のまわりを徘徊した結果が採集数に出ただけの事であって、決して「隠れ蛾屋」ではなく、あくまでも蝶屋としての誇りを保ちながら、旧名「埼玉蛾類談話会」の名に恥ない様な採集会にしたかった蝶屋の願いが込められていたのである。ただ、なぜ我々純蝶屋の単眼にカトカラしか反応しなかったのかが、今もってわからないのである。

最後になりましたが、筆者の不得とする所、最終的な雌雄別の個体数確認が出来なかった点を深くおわび申し上げると共に、多忙中にもかかわらず記録提供をしていただきました諸氏、及び同定、学名等でお手をわざらわせました市川和夫氏に厚くお礼申し上げます。又、宿泊談話会に参加された方で、上記報告に含まれていない方、及び再同定の結果、種名の誤りや変異等が見い出された方は、追補として隨時発表願えればと思います。

(やまさき まさのり 〒330 大宮市島町 824-3)

XXXXXX

訂 正

寄せ蛾記 (42) : 550 「三峰でミドリリンガを 3 頭採集」

XXXXXX

上から 6 行目

(誤) オオシロシタバ (山崎 正則採集)

(正) オオシロシタバ (小堀 文彦採集)

[ 山崎 正則 ]

キタテハを食べそこなつた  
セグロセキレイ  
松井英子

風にあおられて飛んできたキタテハが、畠のうねにまいおりた。止まつたと思われる地点は、畠の周囲の植え込みにさえぎられて見えなかつたが、まいおりた瞬間、そのキタテハの片方の翅をくちばしでつかんだセグロセキレイが、地上1.5m位飛び上がつた。キタテハはもう片方の翅を盛んにパタパタさせてもがいていた。その時、すぐ近くに飛んできたもう一羽のセグロセキレイに向つて、キタテハを捕えていたセグロセキレイが「ピーピー」とさえずつた。その瞬間、キタテハはくちばしから逃れた。獲物を放したセグロセキレイはすぐに後を追つたが追いつかなかつた。あきらめたセグロセキレイは畠のうねにまいおり、尾を上下させながらまた獲物をさがしているようだつた。

1984年3月30日午後2時50分頃、南西の風の強く吹いていたうす曇りの日、手賀沼北岸で観察した一瞬の出来事であった。

(まついひでこ 〒277 柏市根戸427-5 北柏第2住宅3-102)

ミドリシジミがオオイタドリ  
の花で吸蜜  
巣瀬司

1984年8月25日13:00(くもり)、札幌市豊滝で、オオイタドリの花で吸蜜していたミドリシジミ♂(汚損個体)を目撃したので報告する。

当日は、オオヒカゲ、アカマダラ、サカハチチョウ、ミドリヒヨウモン、オナガシジミなどを目撲した。アカマダラは8頭目撲したが、すべて新鮮個体で、3化目の成虫らしい。

(すのせつかさ 〒001 札幌市北区北25条西5丁目22 中野方)

ゴマシオキシタバ平地の記録 2例

宮川哲男

県内の平地にて、ゴマシオキシタバを採集したので報告したい。

/ ex. 狹山市（西武新宿線・狭山市駅構内） 1984-VII-20

/ ex. 深谷市常盤町 64-1 東芝深谷男子寮内 1984-VII-29

いずれも筆者採集。

採集地は、いずれも山地帯とは大きくはなれた平地であり、前者は、駅の壁に静止していたもの、後者は、寮の廊下の上にいたものである。こんな所にカトカラ？と思いつながらも、採ってみると共に本種であった。

大図鑑※の記述を読むと、本種はたまに平野部でも採れるということだがこの一例として、何かの参考になれば幸いである。

※) 日本産蛾類大図鑑 構談社、東京

(みやがわ てつお 〒366 深谷市常盤町 64-1 東芝深谷男子寮)

ヒメアカタテハの飛翔行動の観察例  
巣瀬司

1984年9月19日 15:30～16:30 (快晴、微風)、北海道大学農学部(札幌市北区北7西9)の4階部分の屋上(地上約12m)から5階部分の屋上、さらに建物の中央にある塔(地上約20m)の上を、激しく飛びまわる数匹のチョウが見られた。ボール投げをしていると、そのソフトボールを追い掛けようの行動を見せるのだが、飛び方が速く、さっぱり種名がわからない。そこで、ネットを持ち出して採集したところ、何とヒメアカタテハであった。採集できた個体は / ♀ / ♂ (♀は汚損個体、♂は新鮮個体)。この激しい飛翔は前日の16時頃にも見られたが、9月20日以降は全く見られなかった。

なお、上記以外の札幌市およびその近郊での、今年のヒメアカタテハの採集、目撃例は以下の通りである。

1984年9月18日 北大教養部(北区北7西5) / ♀ (新鮮)

9月18日 北大農学部 2頭目撃

9月21日 小樽市朝里 1頭目撃

9月24日 同 上 1頭目撃

(すのせつかさ 〒001 札幌市北区北25条西5丁目22 中野方)

~~~~~  
川口市でサラサヤンマを採集

神部正博

1983年5月5日、川口市西立野でサラサヤンマ *Jagoria pryeri Martin* / ♂ / ♀を採集したので報告する。この他にも、同一種と思われるヤンマを 1、2頭目撃した。

本種は、新井裕氏〔寄せ蛾記(40): 479〕の冒頭に「近年生息地の消失によって減少傾向が著しい種である。」とされている。

なお、発表にあたり標本を確認して下さった碓井徹氏に感謝します。

(がんべまさひろ 〒340 草加市西町 366-7)

XXXXXX

文献紹介  
XXXXXX 「秩父演習林蛾類目録」 坂田正哉著

東京大学農学部附属演習林 昭和59年1月刊、演習林第23号の別刷、  
pp. 89~104. 本会々員である著者が1978年以降、秩父郡大滝村の滝川、矢竹沢、赤沢、大血川等で採集したカタハキリガ、タカオキリガ等を含む蛾類564種の記録。

氏のご厚意で別刷を若干いただきいたので、入手希望の人は郵送料共200円を紹介者に送られたし（切手を200円分送って下さい）。

〔紹介者：市川和夫〕

「ギフチョウと姫川谷」 蝶蛾シリーズ 8 築地書館  
原聖樹著, 1984年6月5日 (1600円)

シリーズ1の「ギフチョウの自然史」に続く原さんの第2弾である。ギフチョウとヒメギフチョウの産地であり混生地としても有名な姫川谷の自然が、地史的に、あるいは人為的にどう変化し、そのことがチョウたちの生活にどのような変革をもたらしたかを、ドラマチックに述べている。

10年間、太平洋側の神奈川から日本海側の姫川へと通いつめ、そこのギフチョウ10代とのつきあいを基にして著したノンフィクションだから、小説にない魅力にあふれた読みごたえのある名著である。

〔紹介者：市川和夫〕